

近代歌舞伎年表

大阪篇 第九卷
別冊（補遺・索引篇）

国立劇場近代歌舞伎年表編纂室 編

近代歌舞伎年表

大阪篇 第九卷

別冊〈補遺・索引篇〉

八木書店刊

近代歌舞伎年表 大阪篇 第九卷〔別冊〕

発行 平成七年三月三十一日

定価 一一、〇〇〇円(本体二〇、六八〇円)

編者 国立劇場近代歌舞伎年表編纂室

発行者 八木壮一

発行所 株式会社 八木書店

東京都千代田区神田小川町三―八 〒101

振替 〇〇一四〇―九一―〇四五七

電話 東京〇三―三二九一―二九六五

印刷 上毛印刷

製本 博勝堂

中性紙使用 ©1995 日本芸術文化振興会

ISBN4-8406-9220-3

目次

補遺篇	一
補遺の部	三
絵本番付の部	三
参考番付の部	二七
演目名索引	二七

大阪市劇場史略図〔付録〕

補
遺
篇

凡 例

一、「近代歌舞伎年表 大阪篇」編集終了後に収集された、番付・筋書、及び、雑誌『劇場珍報』『演劇新報』『大阪演劇詳報』などによって、補遺・補正を行った。

一、「補遺の部」「絵本番付の部」「参考番付」に分けて記載した。

一、補遺・補正する興行の、初日・劇場名を本文通り記し、その下に括弧をつけて巻数・頁数・上下段を記し、以下〈補遺〉〈補正〉〈追加〉〈異同〉の項目に従って記した。

一、但し、新規収集の番付・筋書は、〈補遺〉に続けて番付面全部を翻刻し、興行日付・劇場名の下へ、挿入箇所の巻数・頁数・上下段を示した。

一、絵本番付は、登場人物像に付された役名・役者名をそのまま翻刻し、役割番付などの配役との異同は検さなかった。役名の付していないものは、役者名のみを列記した。また、役名・役者名の一方を欠いているものは、空白とした。

一、明治期になってからの絵本番付には、再演の場合、古い板木を使ったり、一部を埋木したものがあつて、不鮮明で判読しにくいものが多い。前興行のときの役者名が残っているものもあり、資料として疑問のあるものは割愛した。

一、絵本番付のなかには、人物像には役名・役者名を付さず、番付と同じ体裁のものを巻末に載せたものがある。この類は全部を翻刻せずに、配役の異同と、番付・筋書などに記載のない(裏方の連名など)ものを、〈異同〉〈追加〉としてまとめ、「補遺の部」に入れた。

一、絵本番付は、特に記していないものは総て「板元・玉置清七」である。

一、「参考番付の部」には「俳優芸名大見立」の影印とその翻刻を取めた。

一、補遺篇中の【典拠】は、補遺・補正事項の典拠名である。

○『劇場珍報』 明治十一年八月創刊、編集出版人華本安次郎、出版元華本文昌堂。中座、角座、戎座などの狂言筋書・配役、それに簡単な劇界情報などで編集されている。筋書には閲者として、勝能進・勝彦蔵、校正に奈河忠鳳・近松時助・重扇助その他、三座の狂言作者が名を列ねている。月三回発行をうたつては

いるものの、日がたつにつれて乱れ、発行日も載せなくなった。筋書が何号にもわたつていたり、飛び飛びになつていたりしてわかりにくい。明治十七年十月十六日発行のものに創刊第一号となつている。途中休刊し再刊したものか。

○『演劇新報』 明治十七年七月二十五日第一号が発行され、これも毎月三回であるが、この方はかなり正確に出ている。持主は森平兵衛、編集人中村善兵衛、発行所は巖々堂。内容は『劇場珍報』と大同小異。

○『大阪演劇詳報』 明治二十四年五月十五日号が創刊号。月二回、五日と十五日発行。大阪演劇詳報社発刊。大阪全劇場(文楽座も)の外題・配役・筋書の外に、劇評・俳優評などの読物も多く、東京通信にも頁をさいている。前二者が座付の筋書であるのに対して、専門の演劇雑誌を目指してより幅広い編集をしている。

補遺の部

〔明治元年〕

○九月吉日初日 座摩芝居 (第一卷三七頁下段)

〔異同〕

〔配役〕女房^{空白} 三枿桑三郎→女房おとく 三枿桑三郎

女房戸無瀬・娘おくめ・柏木太夫 片岡松之助→女房おいし・娘おむめ・娘おえん 片岡松之助

〔追加〕

〔狂言作者〕奈河三津助

〔典拠〕役割番付(板元・本清)

〔明治四年〕

〔補遺〕

○二月吉日初日 北の新地芝居 (第一卷一四二頁上段)

〔前狂言〕国性爺合戦 大序より大切まで

〔次〕小野道風青柳硯

〔切〕隅田川続梯

〔配役〕明ノ元正館 実川 延童

五將軍甘輝 侍女芝らん

鯉鮎屋延二 和藤内母

せんたん皇女 下官さんとも

女郎花 手代庄八

おくみ 下官せひとも

片岡 秀丸

中村 芝梅

中村 雀太郎

安大臣 片岡 嶋市 角力取金八

腰元関や 市川 紅丸 下官いくたい

升花女 市川 紅丸 侍女黄連

下官よんぼり 尾上多見太郎 角力取大蔵

角力取安蔵 尾上多見太郎 下官うんかん

老一官 西祥無天 野分姫

西祥無天 信楽勘七郎 角力取たん八

信楽勘七郎 錦祥女 腰元千よ

錦祥女 小野道風 李唐天

小野道風 市川 三之助 権左衛門

女房小むつ とつこノ駄六 女房おしづ

とつこノ駄六 道具屋甚三 唐錦女

道具屋甚三 呉三けい 奥方渚

呉三けい 手代要介 和藤内

手代要介 宿位之介 三かんの玉女

宿位之介 花陽夫人 法界坊

花陽夫人 小野頼風 法界坊亡霊

小野頼風 下官あんなん 中村茂々太郎

下官あんなん 〔浄瑠璃〕竹本亀太夫 (三味線)鶴沢つる介

〔浄瑠璃〕竹本亀太夫 (三味線)鶴沢つる介 馬 (鳴物)小川虎丸

馬 (鳴物)小川虎丸 〔振付〕中村梅寿軒 九山村

〔振付〕中村梅寿軒 奈河重介 奈河二津介

〔頭〕中村亀五郎 〔頭取〕市川熊十郎 中村千加六

〔座本〕実川菊次郎 〔典拠〕役割番付(板元・本清)

○四月吉日初日 座摩裏門芝居 (第一卷一四九頁上段)

〔追加〕

〔配役〕源さね頼 片岡 秀丸 百姓種さく

百姓豊作 市川 市之助 一

【典拠】役割番付(板元・本清)

〔明治五年〕

〔補遺〕

○一月吉日初日 若太夫芝居 (第一卷一七二頁上段)

〔演芸〕

元祖 東京 足芸かるわざ

若太夫	鉄割	久吉
上乗り	鉄割	鶴吉
太夫	鉄割	熊吉
太夫本	鉄割	弥吉

【典拠】絵入番付

○一月吉日初日 天満天神芝居 (第一卷一七六頁下段)

〔異同〕

【配役】天らん□・荒島ノ主税・中村橋太郎→なし 倅五三郎・寺子梅松

中村橋梅→なし 中村梅太郎→嵐璃光

天らん慶 片岡 島雄 腰元タしで 中村 橋三郎

もうこしや天平 代官南兵衛

実は天らん慶

【振付】松浦屋蔵三郎→三折蔵三郎

【典拠】役割番付(板元・本清)

○七月吉日初日 北の新地芝居 (第一卷一八八頁下段)

〔補遺〕

【前狂言】敵討御堂前 二ツ井戸より敵討まで

【中】鎌倉三代記 ハツ目

【切】極彩色娘扇 御好二冊

【後狂言】傾城筑紫鞆

【配役】娘みゆき

磯貝藤介

寺子屋兵助

駒沢次郎左衛門

子ふで介

おきく

時姫

雀踊お雛

磯貝兵介

女房お巻

雀踊蔵作

隠岐の局

下女たき

娘おむめ

女房おくる

雀踊お千

亭主吉兵衛

兄眼八

岩城多喜太

赤城九八郎

中村 千之助

市川 福猿

代々木高綱
奴関介

三浦之介義村

雀踊当作

女房お雪

花屋甚助

雀踊新作

子筆まつ

娘お吉

鉄火の藤蔵

家主作兵衛

丁稚与茂太

阿波の局

噂おらち

手代喜蔵

四五六ノ吉

小しま頼母

富田六郎

手代段八

市川 当升

坂東 薪吉

中村 雀三郎

尾上 卯之介

山下 金十郎

浅尾 山寿

市川 滝蔵

尾上 松鶴

尾上 松鶴

尾上 松鶴

尾上 松鶴

尾上 松鶴

尾上 松鶴

尾上 松鶴

尾上 松鶴

嶋川太兵衛 片岡 当之助 朝日奈藤兵衛
大崎本立 亭主徳右衛門

【浄瑠璃】竹本美石太夫 (三味線) 鶴沢平七 【長 唄】鈴木万吉 (三味線) 吉村小福 【振 付】藤間 【狂言作者】奈河辰蔵 朝井治助 【頭】浅尾山十

【頭 取】尾上緑十郎 【座 本】中村友二
【典 拠】役割番付(板元・玉置清七)

○九月吉日初日 若太夫芝居 (第一卷一九五頁上段)

〔異 同〕

【頭 取】中村紋三郎→中村滝三郎
【典 拠】役割番付(板元・玉置清七)

〔明治八年〕

〔補 遺〕

○一月吉日初日 座摩元芝居席 (第一卷二七五頁上段)

〔浪花二〇九〕

【前】浪良兵衛 花旅三社廻り

【場 割】闇り峠のだん 南都大仏のだん 春日神前のだん 八幡神詣の段
淀川つゝみのだん 伊勢太々神楽ノ段

〔大切〕阿波の鳴門

【場 割】松しまのだん 吉田屋表ノ段 同奥ざしきの段 道化所作事
【配 役】室咲花太郎 新玉 うばおひろ
尼妙仁 むすめ柳

藤屋伊左衛門

講中米吉

芸子手ごし

〔玉山人〕

仲居つぎ 蝶 桑 おこん

ばゝ丹波 下男佐介 梅 枝

おつる 講中梅七 竜 玉

喜左衛門女房 旅人竜介 新 昇

神子おすゞ 娘おくみ 茶 桑

ばゝやまと 講頭長八 新 玉

尼貞心 茶亭吉六 芸者一八

..... 貴多丸 代官甚太郎 寿 玉

茶店ぬら八 ぬた八 新 蝶

女房お吉 和 桑 梅本浪良兵衛 阿波の十郎兵衛

ねぎ和哥太夫 娘すゝき 講中和介 けいせい夕霧

福寿草太郎 米 加

【浄瑠璃】竹本虎太夫 (三味線) 鶴沢儀平 【長 唄】花房伊之丸 花房虎次郎

【三味線】小川辰次郎 中村卯之助 (鳴 物) 中村寅造 (笛) 坂口芳三郎

【狂言作者】初春亭 【狂言方】奈河常丸 【頭 取】良陽軒 【座 元】多家納宇知

【典 拠】役割番付(板元・柴井伝兵衛)

〔明治九年〕

○十一月吉日初日 阪 柴 座 (第一卷三二八頁下段)

〔追 加〕

【配 役】若党逸平 沢村 久蔵 子分文次

秋田主税 沢村 藤 橘 (異 同)

かし物や銀蔵 市川 市 六 勢力民五郎→勢力富五郎

熊沢典膳 飯岡富五郎→飯岡助五郎

【典 拠】役割番付(板元・玉置清七)

〔明治十一年〕

○三月二十一日初日 中の芝居 (第一卷三八〇頁上段)

〔追加〕

〔西京〕 島原の曲輪に
傾城の女紅通〔浪花〕 船場の豪家に
初織の朱鐘旭〔東京〕 西国の繁栄に
栗餅の典綱揚三都名所写真粉
(ママ)惣一座罷出
相勤め申候

【配役】 西京

けいせい

新造

禿

同

舞子

浪花

朱の大鍾旭

男の赤鬼

【典拠】中の芝居筋書 (版元・文昌堂)

男の赤鬼

朱の大鍾旭

男の赤鬼

○六月吉日初日 戌座 (第一卷三八七頁下段)

〔補遺〕

曲亭

馬琴が

作意を

【配役】 大序 旭將軍木曾義仲館の段

大將義仲

猫間中将光隆

義仲臣石田為久

二段目 武藏国入間川唐糸隠家の段

義高乳人唐糸

頼豪阿闍梨毘伝

其儘

大將義仲

猫間中将光隆

義仲臣石田為久

二段目 武藏国入間川唐糸隠家の段

義高乳人唐糸

坂東 太郎

女の青鬼

東京

栗餅の曲揚餅屋

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

訥升

唐糸

偽の義高

石田為久

三幕目 日枝山の場

木曾義高

頼豪阿闍梨

返し 栗津ヶ原浪際場の場

西行法師

猫間光実

義高

為久

女船頭お竹

四幕目 嵐山竹川正忠浪宅の場

忠臣竹川正忠

後室八重垣

正忠女房律戸

一子智恵松

母刀自

五段目 重忠本陣門外の場

竹川正忠

後室八重垣

智恵松

女房律戸

返し 重忠旅館庭先の場

お目見得と申すも

花の難波へ

帰新参

絹川と右衛門

女房栗

坂東 太郎

坂東 太郎

坂東喜津三郎

市川 団治

三幕目 日枝山の場

木曾義高

坂東 太郎

返し 栗津ヶ原浪際場の場

中村 冠十郎

嵐 三五郎

嵐 橋三郎

市川 団治

実川 正朝

嵐山竹川正忠浪宅の場

坂東 太郎

浅尾 よしの

嵐 橋三郎

嵐 橋三郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

嵐 冠十郎

秩父重忠

清水冠者義高

竹川正忠

智恵松

六ツ目 荏柄天神境内の場

石田為久

榛沢六郎

返し 諸越ヶ原非人小屋の段

清水冠者義高

頼朝息女大姫

榛沢六郎

大詰 鎌倉営中の段

非人義高

秩父庄司重忠

唐糸弟今井兼若

返し 別館高樓の場

猫間光実

今井兼若

返し 同 奥庭の場

清水冠者義高

秩父重忠

猫間光実

今井兼若

お目見得と申すも

花の難波へ

帰新参

絹川と右衛門

女房栗

坂東 太郎

坂東 太郎

市川 滝十郎

嵐 橋三郎

坂東 太郎

嵐 橋三郎

市川 団治

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

市川 滝十郎

嵐 橋三郎

坂東 太郎

嵐 橋三郎

市川 団治

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

市川 滝十郎

嵐 橋三郎

坂東 太郎

嵐 橋三郎

市川 団治

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

嵐 三五郎

息女歌かた姫 実川 正朝
 曲金の金五郎 中山 文五郎
 下 絹川堤土橋の場
 絹川与右衛門 嵐 橘三郎
 女房かさね 坂東 太郎
 豆腐屋三夫 市川 滝十郎
 歌かた姫 実川 正朝
 曲金の金五郎 市川 団治
 船頭乗切鶴吉 坂東 太郎
 藤間竹遊

【狂言作者】近松八十助→近松八千助【振付】九山村

【典拠】筋書(版元・玉置清七)

○九月吉日初日 戎座 (第一卷三九五頁上段)

〔補遺〕

【前】赤城い 呂波実記

脚色の結局は元禄十六年如月の上旬

【配役】大序 殿中賽廊の場

浅野内匠頭長矩 実川 延三郎
 伊達左京之助宗春 実川 鷹正
 吉良上野の助義英 中村 芝藏
 堀川与三兵衛 坂東 太郎
 二段目 老中土屋相模守邸宅の段
 堀川宅の場

土屋相模守 中村 福助
 堀川与三兵衛 坂東 太郎
 妻柏木 中村 紫琴
 娘園花 実川 正朝
 三幕目 東西国回向院門前の段
 両国橋橋詰の段
 両国橋夜景の場
 小山田重兵衛 姉川 仲藏
 堀部安兵衛

小山田庄左衛門 中村 福助
 大高源吾 中村 芝藏
 宝井其角 中村 芝藏
 千馬三郎兵衛 実川 延若
 大石内蔵の助 市川 荒五郎
 原総右衛門 中村 雀右衛門
 不破数右衛門 嵐 璃笑
 矢藤与茂七 実川 延三郎
 大石主税 坂東 寿三郎
 寺坂吉右衛門 実川 鷹正
 間重二郎 坂東 太郎
 赤垣源藏 市川 新四郎
 片岡源五右衛門 実川 団治
 吉田忠右衛門 嵐 儀三郎
 横川勘平 嵐 三五郎
 茅野和助

武林只七 中村 芝雀
 村松 大谷龍ゑもん
 奥田 実川 菊藏
 杉野 実川 鷹若
 四段目 吉良上野邸の場
 松浦侯侍席の場
 吉良の邸寝所の段
 松浦家の玄關先の場
 妻おれん 実川 芦鷹
 大高源吾 中村 福助
 大石内蔵の助 実川 延若
 隠居鎮信公 中村 雀右衛門
 宝井其角 中村 芝藏
 上野の助 中村 鷹正
 間重二郎 中村 芝雀
 武林只七 沢村 千鳥
 妹お縫 高輪泉岳寺門前の場
 五段目 仙石家役邸の場
 小山田重兵衛 姉川 仲藏
 吉田忠左衛門 市川 団治
 富森助右衛門 実川 新四郎
 仙石伯耆守 嵐 三五郎

【切】古手屋八郎兵衛 鐘諸行夢鮫鞘
 【丹波屋おつま】
 【配役】上の巻 住吉茶店の場
 お妻 実川 正朝
 手代八郎兵衛 実川 延若
 息子助三郎 嵐 璃笑
 女郎若野 実川 芦鷹
 六段目 泉岳寺墓所の場
 品川宿相模屋の場
 大石内蔵の助 実川 延若
 義士四十余人総登場
 遊女おくら 実川 芦鷹
 小山田庄左衛門 中村 福助
 近藤源四郎 市川 団治
 大結 細川侯邸の場
 同 邸裏手辻番所段
 細川越中守 坂東 太郎
 大石義雄 実川 延若
 不破正種 中村 雀右衛門
 堀部金丸 市川 荒五郎
 大高源吾 中村 福助
 小山田 嵐 璃笑
 矢藤与茂七 実川 延三郎
 大石主税 市川 団治
 吉田忠右衛門 市川 団治
 進藤源四郎 坂東 寿三郎
 寺坂吉右衛門 中村 芝雀
 武林只七 沢村 千鳥
 姉おさき
 梶岡文蔵 嵐 義三郎
 香具屋弥兵衛 中村 雀右衛門
 下の巻 丹波屋の段
 千日前墓所の段 嵐 璃笑
 古手屋助三郎

梶岡文蔵 嵐 義三郎 香具屋弥兵衛 中村雀右衛門
 八郎兵衛 実川 延若 お妻 実川 正朝
 は入屋与平治 坂東 太郎 矢島才兵衛 中村 福助

【典拠】「劇場珍報」第三号(明治11・9・12)

〔明治十二年〕

○三月二十一日初日 戎座 (第一卷四一四頁上段)

〔追加〕

蝶千鳥曾我実録

本望の普に因て十段続

【場割】大序・洛陽平野神社境内の段 同別当所の段 江州野洲河原の段

序切・伊豆国奥野狩倉の段 二段目・箱根山対面の場 行実阿闍梨

居間の段 三段目・北条家箱王元服の場 同館奥庭離座敷の体 小

除綾堤康申堂の場 四段目・大磯長の家外構の体 大広間和田酒宴

の段 同虎御前部屋の段 鳴立沢墓原の段 五段目・曾我中村祐信

邸の場 六段目・富士の裾野の狩倉 工藤祐経仮家の体 奥・曾我

兄弟本望の段 狩場入口の体 祐経寝所の段 大詰・頼朝公の仮御

所問答の段

【典拠】「劇場珍報」第九号(明治12・3・15)

○五月一日初日 戎座 (第一卷四一七頁上段)

〔補遺〕

【上】 世界は東京 仮名垣魯文が 編纂の奇談 とりおひまつかいじようしんわ
 脚色は浪花 石川一口が 講談の聞書 鳥追於松海上話 活字本八冊

【配役】 序幕 東京両国広小路の段

青柳樓座敷

手代忠蔵 延三郎

お滝 珉子

大工伝次郎 飛鶴

鳥追お国 義三郎

お万 雁若

安次郎 嘉七

深見信義 新四郎

妻安子 正朝

奴新助 友治

二段目 汐入口非人小家の場

同 非人小家裏手

同 浄念寺場外

駒形河岸夜の模様

忠蔵 延三郎

お松 福助

お千代 新四郎

忠兵衛 飛鶴

吉蔵 市十郎

浜田庄司

三段目 蒲原旅籠屋の場

同 奥座敷の体

離座敷の体

元の奥座敷の体

飛鶴

千鳥

福助

延三郎

市十郎

四段目 東海道薩埵峠の場

遠州洋邊見の体

遠州洋海面の体

福助

朝太郎

市十郎

正朝

友治

五段目 大坂博労町足袋屋の場

合邦が辻駕籠破の場

安子 正朝

お松 福助

伝次郎 飛鶴

忠蔵 延三郎

六幕目 浜田庄司邸の場

大坂上町庄司邸の体

僕新助 友治

お梅	千鳥	お松	福助
おさよ	鴈若	重明	
吉蔵	飛鶴	忠蔵	延三郎
佐助	福助	日海和尚	市十郎
お松	作蔵	忠蔵	延三郎
三沢重明	金蔵	お千代	朝太郎
大詰	同 辻堂の場	安子	新四郎
振州摩耶山半覆の体	狐師作蔵住家の場	伝次郎	正朝
	神戸汽車道の場	飛鶴	飛鶴
吉蔵	飛鶴	お滝	珉子
【中狂言】岸姫松轡鑑	三段目の切 飯原兵衛館の段		
【配役】嫡子隼人の助	延三郎	漁師与茂作	嘉七
朝日奈三郎義秀	飛鶴	娘のおふね	正朝
【切狂言】俠客浪花産	住吉神社境内の場 千日前野晒住家の段 天王寺山門の場		
【配役】土器売佗助	嘉七	浮世渡平	飛鶴
野晒悟助	福助	六字南無右衛門	嘉七
娘おしづ	千鳥	提婆の仁三郎	市十郎
娘お田井	正朝		
【太夫本】三栄			
【典拠】「劇場珍報」第十号(明治12・5・1)			

○十月一日初日 戌座 (第一巻四二四頁上段)

〈補遺〉

○九月吉日初日 戌座

実神国の功績は 豊前の国早瀬社の起源

日本第一和布苅神事 奉幣五段

実皇国の恩沢は 長門の国豊玉姫の由来

【配役】序 幕 小破瀬ヶ原所置場の段

藻屑三平 延若

実ハ尾形力丸 延若

大内老臣島田甚五右衛門 繁蔵

序 切 大内家の花園桜狩の段 寿三郎

大内左京太夫義興 延三郎

同 弟長門之助義隆 延三郎

二段目 大内家客殿の体 寿三郎

大内義興 珉子

傾城岩国太夫 橘三郎

家老吉川帯刀 延若

勅使細川勝久 延若

同 奥方藩の方部屋の段 紫琴

なぎさの方 延笑

義興一子義丸 同 元の客殿の段 寿三郎

義興 実ハ吉川帯刀 橘三郎

吉川帯刀 橘三郎

実ハ大内義興 紫琴

渚の方 延若

勅使細川勝久 延若

実ハ尾形力丸 延若

同 奥 早瀬の社布苅の神事の場 荒五郎

官主松浦長官 延若

実ハ大道寺勘解由 延若

尾形力丸 橘三郎

吉川帯刀 延若

三段目 伯道庵室の体 荒五郎

庵主伯道 延若

実ハ大道寺勘解由 雀右衛門

百姓与四郎 延三郎

実ハ勘解由嫡子 延三郎

大内左門之助 延三郎

同 蓮池衛門の段 荒五郎

伯道怨念 延若

尾形力丸 橘三郎

吉川帯刀 寿三郎

大内義興 梅太郎

帯刀女房さらしな 璃幸

娘お蓮 珊瑚郎

久住新助 龍右衛門

百姓与五兵衛 太キ五郎

願論坊 菊蔵

大詰 大内家浜屋敷の段

伯父山口但馬

菊浪検校

延 若 一 実尾形力丸

追善狂言

十回り三つの追善にめぐり紀の路の高野山へ

久吉公が祠堂の奉納瘦たる馬に重荷をば

然も乗たる三千両身にも応せぬ大役も只御ひ

いきと兄の手綱にすがりて信高か小手さへ拙き

【中狂言】大和橋の馬伐 実入櫓黄金駒曳

大和橋の場

【配役】三七郎信孝

延 三郎

仲居お浜

紫 琴

高島遠十郎

延 若

傾城遠里

梅 太郎

間守郷之助

雀右衛門

仲居おさよ

珉 子

坂垣六太郎

橘三郎

傾城小妻

璃 幸

古郡耕作

荒五郎

馬士陀多八

菊 蔵

千隈豊次郎

寿三郎

年寄吾九郎

仲 蔵

種田卯之助

芝 雀

馬士権吉

鴈 若

水内友之丞

荒太郎

馬士字丈三

福 蔵

木辻慶蔵

珊瑚郎

馬士喜茂太

太喜五郎

菅野要衛門

延五郎

大工与四郎

鴈治郎

仲居お岸

芦 鴈

【切狂言】

いつ迄草の
御余光仰ぐ
日柄の約束
五大力恋緘

【配役】上の巻 島の内富市の場

千島家若殿万太郎

延三郎

廻し男弥助

勝間源五兵衛

延 若

富田屋お市

紫 琴

笹野三五兵衛

雀右衛門

出石

菊 蔵

同 様座敷の場

雀右衛門

津山

龍右衛門

笹野三五兵衛

雀右衛門

矢上

美 男

菊野

芦 鴈

奴正太平

鴈 若

勝間源五兵衛

延 若

丸屋仁兵衛

太喜五郎

若殿万太郎

延三郎

喜集院喜平太

寿三郎

大重の女房お咲

梅 太郎

弥助

荒五郎

娘なぎさ

珉 子

下の巻

若党八右衛門

橘三郎

源五兵衛

延 若

中の巻 老松町浪宅の場

延 若

三五兵衛

芦 鴈

源五兵衛

延 若

三五兵衛

雀右衛門

菊野

芦 鴈

若党八右衛門

橘三郎

【座主】三栄

【典拠】「劇場珍報」第十四号(明治12・9・12)

〈補遺〉

○十二月吉日初日

中の芝居

(第一巻四三二頁上段)

〈邦楽〉義太夫

浄瑠璃縁の賑ひ

芸題毎日替り
大切惣一座かけ合

竹本七五三太夫

竹本 袖 太夫

豊竹 駒 太夫

豊沢 団 玉

竹本 才 六

野沢 吉 弥

竹本 の 太夫

竹本 田喜太夫

中 入

鶴沢 才 六

竹本 松之助

竹本 三根太夫

竹本 弥津太夫

竹本 喜代太夫

鶴沢 清次郎

鶴沢 松之助

豊沢 平次郎

竹本 染 太夫

竹本 津留太夫

豊竹 仮名太夫

鶴沢 叶

豊沢 平次郎

豊沢 龍助

竹本 住 太夫

竹本 大倉太夫

竹本 津 太夫

鶴沢 勝 七

鶴沢 才 六

竹本 才 治

鶴沢 勝 七

竹本 越代太夫

竹本 弥 太夫

鶴沢 勝 七

豊沢 団 玉

鶴沢 重造

【頭取】竹本越の太夫 【値段付】棧敷一間に付代四十五銭 出孫・上場同代十八

銭割 一人前代四銭

【典拠】乱表(板元・玉置清七)

〔明治十三年〕

○三月十九日～四月十二日

戎座

(第一巻四四三頁上段)

〔補遺〕

荒木の道場に撃剣の 金看版

やなぎながしいがのすいげつ

柳生流伊賀水月

河合の相伝に銘剣の 銀造拵

〔配役〕 大序 荒木村祭礼の場

猪野丑の助

家正

藤堂室皆瀬

家幸

若党幸八

若次

庄屋小源太

福助

組頭徳右衛門

璃運左衛門

神職主膳

梅三郎

角力取猿ヶ鼻

芝五郎

神子禰

小松

百姓若イ者

大ぜい

下女おまつ

ゑん女

神主鈴木太夫

松五郎

娘お君

璃光

二段目 池田家刀剣上覧の場

片山三左衛門

河合又左衛門邸の場

石川主水

渡辺靱負

嘉七

河合又右衛門

雀右衛門

渡辺数馬

延三郎

池田宮内輔

鴈正

笹川団右衛門

若松

荒巻伴作

太キ五郎

外村外記

新四郎

長谷部九郎蔵

鴈若

青田

福蔵

田原

家正

津守左膳

芝鶴

奥方

玉蔵

真壁

芝五郎

安田

寛蔵

奴宅平

玉猿

こし元

雀二郎

仲間時平

福平

二段目奥 柳生宗玄閑居の場

延若

猪野丑の助

嘉七

改荒木又右エ門

鴈正

柳生宗玄

芝鶴

片山三左衛門

福蔵

石川主水

福蔵

岡村一平次

福蔵

三段目 日向国獅子飛川の場

同 法華嶽の場

荒木又右衛門

延若

渡辺靱負

嘉七

順礼文兵衛

菊蔵

同 娘お勝

正朝

桜井甚左衛門

龍右衛門

亭主善兵衛

新四郎

山猫五郎助

太喜五郎

狼のキバ六

璃運左衛門

桜井甚助

市六

山賊の熊

玉猿

同 鎌

福蔵

同 豚

鴈若

竹の内鬼玄丹

狼之助

むじなの権

菊蔵

山げげん五六

芝五郎

四段目 新吉原仲町の場

延三郎

渡辺数馬

若松

笹川団エ門

芝雀

池田の若殿

しうか

花紫太夫

芝鶴

津守左司馬

市六

笹島正蔵

嘉蔵

浜井平助

小若

太鼓持蟹八

芝五郎

若まつ

璃光

芸子若よ

児雀

同小よし

同 雀

四段目奥 花町荒木道場の段

同 雀

柳生飛驒守

璃寛

片山武兵衛

福助

渡辺靱負

嘉七

荒木又右エ門

延若

家主久七

狼助

山住伊兵衛

狼之助

靱負娘お民

千鳥

大道寺東馬

芝雀

どら猫三次

福平

下役二郎助

芝五郎

雇かゝお熊

福蔵

荒熊八五郎

朝太郎

五幕目 池田家下家敷の場

同 靱負殺しの場

又五郎

雀右衛門

数馬

延三郎

伊兵衛

狼の助

靱負

嘉七

団右衛門

若松

刀屋

鴈若

近藤昇の助

新四郎

門番文兵衛

菊蔵

大谷茂衛門

玉猿

近習金吾

笑三郎

奴市平

芝五郎

こし元お竹

児朝

六幕目 大海道相模ヶ原の場

同 雀右衛門

河合又五郎

狼の助

山住伊兵衛

朝太郎

庄屋五作

鴈若

武藤小平太

斗朝

代官正太夫

鴈蔵

七幕目 伏見稲荷の場

同 京橋喧嘩の場

放駒の四郎兵衛

雀右衛門

駕昇武助 山住伊兵衛

実ハ武兵衛 鬼玄丹

瀬川勝吉 女房お国

実は文兵衛娘お勝

武助女房

くすりや長左衛門

渡辺数馬

烏の宗兵衛

かんからの竹

桜井甚左衛門

根こぎの松

なたの国松

駕昇権六

若奥山宗庵

八喜目

深草の里隣同士の場

伏見本陣油屋の場

淀川堤荒木出達の場

荒木

放駒

河合

武兵衛

瀬川勝吉

黒川左膳

【中狂言】

【配役】

玉手御前

俊徳丸

浅香姫

奴入平

福助

正朝

紫琴

太キ五郎

延三郎

若松

鴈若

龍右衛門

鴈蔵

延丸

福平

璃運左エ門

八喜目

深草の里隣同士の場

伏見本陣油屋の場

淀川堤荒木出達の場

荒木

延若

武藤

桜井甚助

薬種屋

星合

正朝

新四郎

酒屋久八

璃寛

延三郎

千鳥

芝蔵

山住伊兵衛

鬼玄丹

女房お国

星合団四郎

薬屋長左衛門

同 甚の助

桜井甚左衛門

渡辺数馬

かんからの竹

大詰 伊賀越敵討本望の場

荒木又右衛門

河合又五郎

片山武兵衛

渡辺数馬

山住伊兵衛

梶原

平田

武藤

桜井甚助

薬種屋

星合

正朝

新四郎

酒屋久八

同 女房お勝

母藻戸

庵主合法

次郎丸

猿の助

紫琴

朝太郎

太キ五郎

市六

龍右衛門

延五郎

鴈若

延若

雀右衛門

福助

延三郎

猿の助

家正

玉蔵

鴈若

市六

太キ五郎

朝太郎

龍右衛門

福平

璃寛

延三郎

千鳥

芝蔵

太喜五郎

【切狂言】鎌倉三代記

【配役】三浦之助義村

北条時姫

阿波の局

讃岐の局

佐々木高綱

③興丁権吉・福平

④筋書異動①順礼文兵衛・朝太郎

②河合又五郎邸の場 池田下邸叔負殺の場

【典拠】「劇場珍報」第二十一号(明治13・3・17)

○五月二日初日 戎座 (第一卷四四九頁上段)

〔補遺〕

【前狂言】迷子札裁断柱礎

全八冊

【配役】大序

柴山八幡境内の場

溝口家御前試合の場

安田幸八

若党惣助

松原三左衛門

安田幸左衛門

幸八妻お雪

堀江勘解由

石川主水

蜂谷三之助

生駒吾三郎

渡川伴吾

渡辺重蔵

若上九兵衛

延若

璃寛

正朝

千鳥

多見蔵

母親

女房おくる

鳴おらち

富田の六郎

雀右衛門

嘉七

鴈正

紫琴

璃寛

正朝

多見太郎

芝鶴

家幸

乳母お咲

吉川郷蔵

溝口伯耆守

二段目 東叡山花見の場

村安力の丞

伊勢屋与兵衛

手代常吉

紺屋職人忠次

常助の娘お豊

絹屋娘お菊

菊川郷蔵

若者小花

丁兒久太

伊勢屋由兵衛

多見太郎

芝鶴

小若

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

福平

松金屋お竹	小松	松林甚三郎	玉蔵
山本運平	福蔵	深沼藤五郎	璃運左衛門
小西段九郎	玉猿	伊勢屋由兵衛	福平
下女お初	児朝	家主源八	市家蔵
箱屋仙吉	笑之助	同 万兵衛	滝七
若党惣助	若松	番太郎九郎助	寛吉
百姓常助	嘉七	力之丞幸吉	秀次郎
三節目 本郷富士前裏借家の場		村安力之丞	璃笑
湯島切通しの場		五節目 將軍家殿中役判の場	
力之丞転宅の場		大伝馬町牢屋敷の場	
木鼠の吉五郎	璃寛	同 奥 大岡下城の場	璃笑
丁児長四郎	璃寛	木鼠の吉五郎	福助
手代常吉	福助	戸田山城守	狼之助
村安力之丞	璃笑	中山出雲守	若松
常助娘お豊	正朝	水野和泉守	鷹正
力之丞倅幸吉	秀次郎	松平伊賀守	笑之助
釜屋林兵衛	龍左衛門	杉浦三之丞	福六
駕昇勘六	市六	栗原逸斎	寛蔵
八百屋豆六	福蔵	平泉健蔵	斗朝
手代善兵衛	嘉蔵	守山伝助	市家蔵
駕昇重吉	玉猿	八田銀平	嘉七
米屋糖助	福平	大岡越前守	
薪木屋与喜右衛門	璃運左衛門	六節目 水道町住の場	
百姓常助	嘉七	伊勢屋与兵衛	璃笑
四節目 本郷春木町伊勢屋店先の場		紺屋職人兼吉	芝雀
村安力之丞捕物の場		芸者小花	芝鶴
丁稚長四郎	璃寛	五郎兵衛妻お絹	正朝
手代常吉	福助	大工熊五郎	多見太郎
絹屋彦兵衛	多見太郎	娘お春	児朝
釜屋林兵衛	龍左衛門	輕子国蔵	玉猿

倅幸吉	秀次郎	大詰 南奉行所白洲の場
白屋八兵衛	滝七	木鼠吉五郎
家主勘六	市六	手代常吉
紺屋五郎兵衛	狼之助	伊勢屋与兵衛
力之丞妻お雪	璃寛	村安力之丞
七節目 木下川村常助内の場		中山出雲守
木鼠吉五郎	璃寛	紺屋五郎兵衛
手代常吉	福助	若党惣助
常助娘お豊	正朝	家主勘六
若党惣助	若松	吉川郷蔵
大工熊五郎	多見太郎	半田数馬
百姓万作	玉猿	力之丞倅幸吉
同 米六	璃運左衛門	林桑之進
甘酒屋釜右衛門	寛蔵	釜屋林兵衛
糊完婆お姫	福蔵	伊勢屋由兵衛
紙屑買文助	福平	渋谷武兵衛
百姓常助	嘉七	大岡越前守
【切狂言】国性爺合戦	楼門の段 獅子ヶ城の段	
【配役】和藤内	嵐 璃寛	錦祥女
和藤内母	中村 福助	五將軍甘輝
老一官	中村 嘉七	
【太夫本】三栄		嵐 璃笑
【典拠】戎座筋書(玉置清七板)		尾上 多見蔵

○六月二十二日(七月十四日) 戎座 (第一巻四五頁下段)

〔補遺〕

【前狂言】時代八面本出世鑑 あつぱれたいこうせんなりびよたん
世界八写本奴請状 適太功千成瓢箪 続六段